

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resources

Title	「大型店問題」の解明と小売商業者の歩むべき道
Sub Title	
Author	長谷部清(Hasebe, Kiyoshi) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0224

学生氏名	長谷部 清	主査	藤 枝 省 人
	(株式会社 イトーヨーカ堂)	副査	和 田 充 夫
所属ゼミナール	田 中 滋 研		田 中 滋

「大型店問題」の解明と小売商業者の歩むべき道

1982年2月、わが国の大型店は一方的な出店規制を課せられるに至った。この問題は、表面的な経営技術論で把えるべきではなく、一国の経済のみならず歴史、文化、政治といった社会全体にかかわる課題として理解する必要がある。しかし、客観的に現状を判断すれば、これまでに出された数々の解決策の提案からは、課題解決のための理論枠組みが確立されてきたとは言い難い。このような状況の中で小売商業者は歩むべき道を見失っているのではないだろうか。

本研究は、「大型店問題」解決のための理論枠組みを確立するとともに、その枠組みを用い、小売商業者の歩むべき道の提言を行うことを骨子とする。

論文は、第1部分析編と第2部提言編から構成されている。

第1部の分析編では、まず「大型店問題」のもつ多面性の整備を通じ、分析視角の抽出が試みられた。その際に、アメリカにおける類似事例の検討も併せて行なわれている。次に、その分析視角に基づきわが国社会に占める「大型店問題」の位置付けが明確化されると同時に、真に解決すべき問題の抽出が行なわれた。その結果、従来主張されていた多くの“大型店規制論”の欺瞞性が露呈された。もちろん、その欺瞞性を葬り去るべく徹底的に追求が行なわれている。

第2部の提言編では、まず第1部で抽出された分析視角のうち、とりわけ「大型店問題」解決に影響を及ぼす“流通効率化”と“地域形成”の二面がとりあげられ、この両面から課題解明の手掛りを得る努力が試みられている。続いて、その結果を利用し、「大型店問題」解決のための理論枠組みについて、具体的ないくつかの提案が提示されている。最後に、それらの提言に基づき、今後の小売商業者の歩むべき道を考察し、その方向を指し示して終章とする。